

M O N T H L Y

vol.83

U P

インキのしくみと弱点



印刷のインキにも弱点があります。 知っておきたいインキの特性。

4種類で、世の中のほとんどの色を再現するCMYKインキ。一概にCMYKといっても、それぞれの性格は違います。普段あまり注目されることがないインキですが、その特性をつかむことも、より良い印刷物づくりには欠かせないことなのです。

モニタ画面で見るDTPデータの「色」を、最終的に紙に再現する色材が印刷インキです。正しい印刷物の設計には、インキの知識が不可欠になります。インキの主な成分は、顔料とワニス。顔料は色を決める成分で、水や油などには溶けません。ワニスはインキに流動性を与え、印刷機から紙へインキを転移し、その後乾燥して色を定着させます。

オフセット枚葉印刷機では、1秒間に3~4枚の速度で印刷された紙が、次々に積み重ねられます。この際、インキ皮膜が上に積まれた紙の裏を汚さないよう、インキは紙の中に急速に浸透していきます。その後インキ皮膜が乾き、さらに数時間以上をかけて、インキ中の油分が酸化し、完全に乾燥します。こうした特性により、裏付きを防止します。

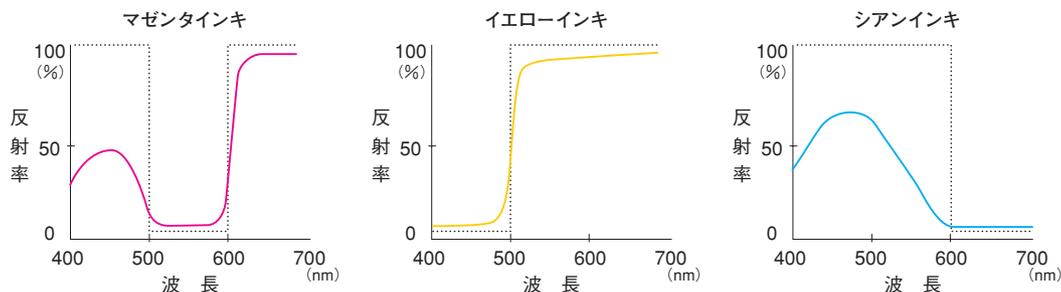
カラー印刷では、通常、C（シアン/藍）M（マゼンタ/紅）Y（イエロー/黄）K（ブラック/墨）の4色からなるプロセスインキを使用します。このプロセスインキのCMYは、透明インキなので重ね刷りを

すると下色と混色して発色。さまざまな色合いを再現します。どの色から印刷しても大きく発色が異なることはありませんが、インキの転移性を考慮してKCMYの順で刷ることが一般的です。

インキは、CMYKそれぞれの耐光性に違いがあります。CとKは耐光性が強く、YとMは弱い。YやMは、10日ほど太陽光にさらされただけで退色してきます。したがって野外ポスターやパッケージなどを制作する時は、超耐光性インキを使う、表面加工を施すなどの工夫が必要です。また色相に関しては、Yインキはほぼ理想的。しかしMとCインキは、理想的なカーブとはかけ離れています。これはインキの顔料が持つ欠陥で、修正はできません。つまりMやCインキを含む彩度の高い緑や紫、オレンジの色相は、忠実な再現は難しいと言えます。

より良い印刷物づくりには、こうしたインキの特性を考慮することも重要になってきます。

プロセスインキの分光反射率 (点線:理想、実線:実際)





<http://www.sezax.co.jp>

- | | | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|-----------------------|-----------------------|--------------------|
| <input type="checkbox"/> 本社・工場 | 〒146-0091 大田区鶯の木2-9-7 | TEL 03 (3758) 2511(代) | FAX 03 (3758) 2754 | |
| | | 営業専用 | FAX 03 (3758) 2544 | |
| <input type="checkbox"/> 渋谷コア | 〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル6F | TEL 03 (3400) 9211(代) | FAX 03 (3409) 7315 | |
| | | 5F | TEL 03 (3400) 9401(代) | FAX 03 (5468) 9253 |
| <input type="checkbox"/> 下丸子工場 | 〒146-0092 大田区下丸子2-20-4 | TEL 03 (3758) 2516(代) | FAX 03 (3758) 8850 | |

株式会社セザックスクリエイティヴ

〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F TEL 03 (3409) 4970(代) FAX 03 (3409) 2732

株式会社セザックスインターナショナル

〒150-0002 渋谷区渋谷3-19-1 渋谷オミビル2F TEL 03 (3409) 0527(代) FAX 03 (3409) 6610



VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロの地球にやさしいインキを使用しました。

この小冊子は森林認証紙を使用しています。